



北海道大学 COI『食と健康の達人<sup>®</sup>』拠点と岩見沢市が共同で、  
出生率の向上と低出生体重児の減少を目的とした世界に類を見ない  
母子健康調査を開始

北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点（※1）と岩見沢市は、森永乳業株式会社、株式会社日立製作所などの共同研究企業とともに、岩見沢市の未来を担う子どもたちの健やかな成長と発達を目指し、「岩見沢市における母子健康調査」を開始します。この調査は、妊娠中の環境の把握、出産、乳児期から幼児期、学童期に至る子どもの生活習慣、健康状態を調べ、出生率の向上や低出生体重児（※2）の減少などを目的としています。自治体が事業主体となり大学と共同で行う本調査は、世界に類を見ない取り組みです。

**背景：**

日本では、多くの子育て支援政策が行われてきましたが、合計特殊出生率（※3）は1985年の1.76から1.26まで低下（2005年）しました。現在は1.45（2015年）と回復基調にはあるものの、フランスの2.01、英国1.92、米国1.88（いずれも2013年）とは、非常に大きな開きがあるのが現状です。また、生まれてくる新生児に着目すると日本の低出生体重児比率は9.5%であり、フィンランド4.2%、OECD（25カ国）6.8%に比べても非常に高い水準にあります（いずれも2014年結果）。また、1990年の6.3%と比較しても、3.2%も増加しました（OECD Health Statistics 2016）。

**概要：**

北海道大学は、北海道大学 COI『食と健康の達人』拠点において、地域活性・地方創生へ繋がる「女性、子供と高齢者にやさしい社会」の実現を目指し、一人ひとりの健康状態に最適な「食、運動、健康、環境」の新しい価値を創造する研究開発・社会実装を進めています。その活動の柱として、岩見沢市と連携し、持続的に笑顔あふれる地域社会実現を目指した「健康コミュニティ」作りのために、母子の生活・成長を記録し保健師に相談できるスマートフォンアプリ「家族健康手帳」の開発、子育てを支援するフリーペーパー「live」の発行、「いわみざわ健康ひろば」での健康体験、コミュニティづくりなどの取り組みを行っています。

本調査は岩見沢市が事業主体となり北海道大学 COI が共同で企画し、共同研究企業などが協力して実施するものです。岩見沢市で暮らす妊婦とその子どもを対象として、妊娠中の環境の把握をはじめ

とし、出産、乳児期から幼児期、学童期まで子どもの生活習慣、健康状態を調査し、子どもの成長発達に影響を与える因子や、近年増加している子どものアレルギーや肥満などのさまざまな疾患の原因を明らかにすることを目指します。

この調査では、岩見沢市で母子健康手帳交付を受ける妊婦の方々のうち、同意を得られた参加者から、妊娠期から出産後の母親と誕生後の子どもに対し、生活習慣などの情報、母乳、便、尿など（一部血液）を継続的にご提供いただきます。それらの測定結果は、母子の健康と成長に役立つよう、アドバイスとともに参加者へお返しします。併せて、本調査で得られた結果を分析し、岩見沢市の健康づくり施策に反映させ、母子の健康を守り、子どもたちの健やかな成長発達に寄与することを目指します。

#### お問い合わせ先

北海道大学産学・地域協働推進機構 FMI 推進本部 松山（まつやま）・吉田（よしだ）

TEL : 011-706-9602 E-mail : coi-office@fmi.hokudai.ac.jp

#### 【用語解説】

※1 センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム … 文部科学省と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する、産学官連携によって革新的なイノベーションの実現を目指す研究開発プログラム。北海道大学は平成 25 年度より本プログラムに採択され、筑波大学、北里大学、30 社を超える企業・関連機関とともに『食と健康の達人』拠点として活動している。

※2 低出生体重児 … 出生時の体重が 2,500g 未満の新生児のこと。

※3 合計特殊出生率 … 15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその一生の間（15～49 歳）に生む子どもの数に相当する。

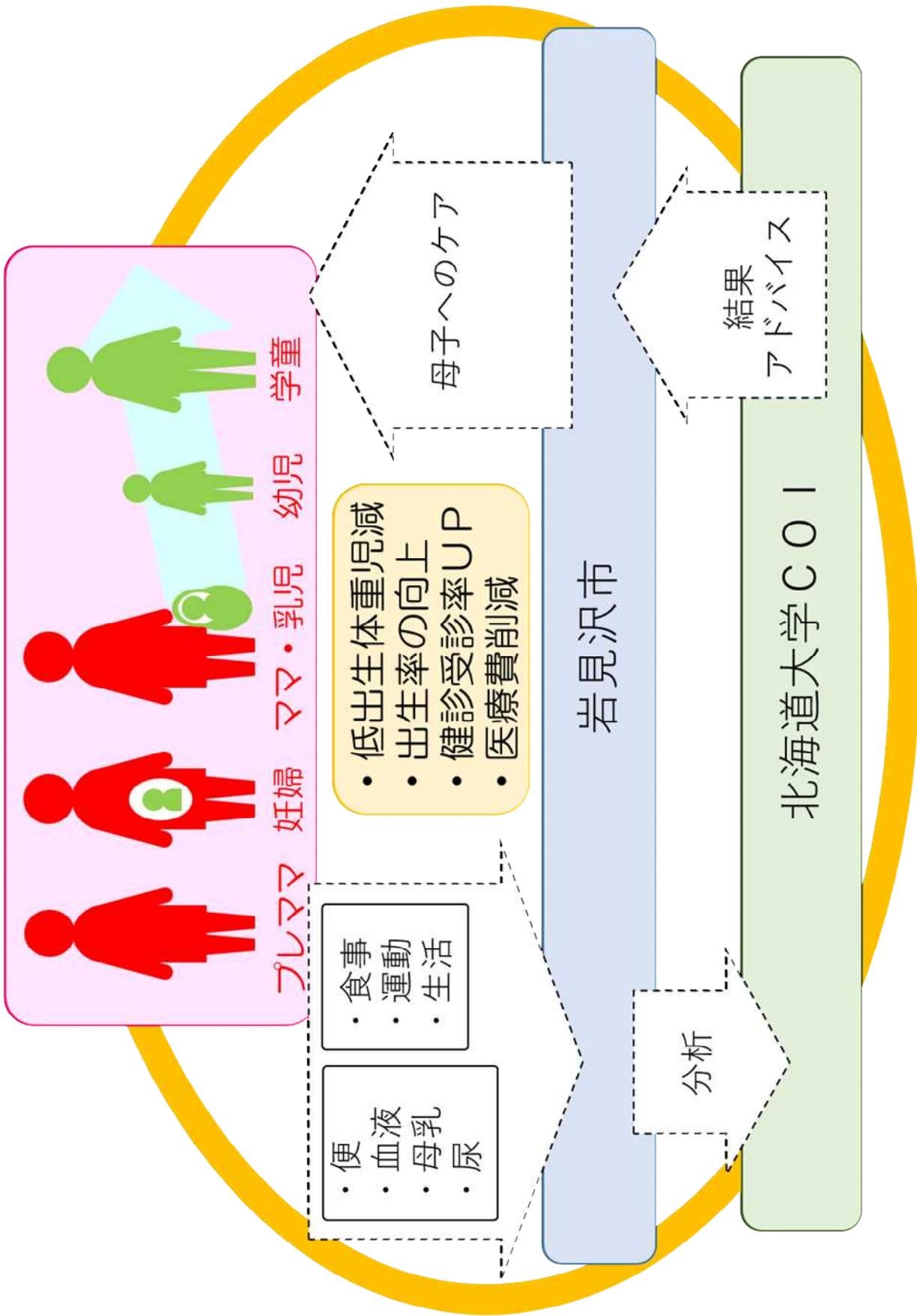


図1 岩見沢市における母子健康調査の概要

# 岩見沢市における母子を対象とした取り組み事例



図2 岩見沢市における母子を対象とした取り組み事例